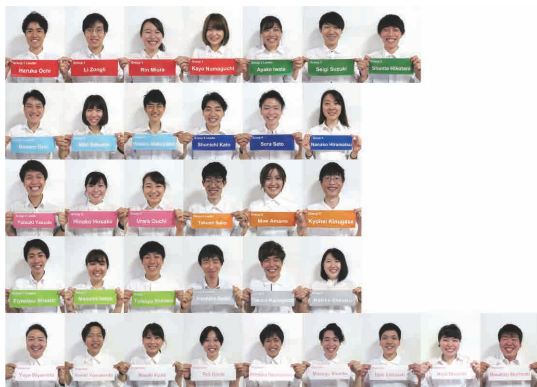


建築学生ワークショップ明治神宮 2021

全国の大学生たちが小さな建築を、明治神宮境内に8体実現。



2020年度参加学生

明治神宮は、わが国の正月三が日の初詣では、300万人を超える第1位の参拝者数からも、世界を代表する聖地であるといえ、22万坪（約73ヘクタール）に及ぶ広大な神域と森に囲まれています。内苑と外苑に分かれたこの森は、太古の原生林と見まがう人工の森として存在し、東京で絶滅したはずの生物が数多く生息する場所です。

参加者 建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生 34人

参加校（2020年度）

東京大学 京都大学 東京都立大学 鹿児島大学 三重大学 大阪大学 明治大学 奈良女子大学 名城大学
京都府立大学 京都工芸繊維大学 金沢大学 近畿大学 北九州市立大学 東京理科大学
関東学院大学 神戸芸術工科大学 武蔵野美術大学 大阪市立大学 武庫川女子大学 京都建築大学校

※順不同

2021年度参加予定講師



公開プレゼンテーション

今春に全国から公募にて募りました、建築や芸術、環境デザインを学ぶ国内外の参加学生ら約60名が、合宿（期間：9月7日から13日）にて明治神宮周辺に滞在し、古代からの歴史文脈に基づいた小さな建築を8体、9月12日（日）明治神宮境内に実現します。また9時20分より、明治神宮参集殿にて開催される公開プレゼンテーションでは、参加学生たちの提案意図や制作の創意工夫を発表し、国内外で活躍する建築家をはじめとした全国の大学で教鞭を執られる先生らと技術者による講習会を開催します。



明治神宮（空撮）

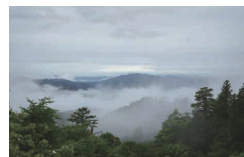
大学や専攻、年齢も異なり次世代を担う参加学生たちが、歴史的に貴重な日本の聖地の環境に触発され、6月より現地のリサーチを重ねた経験に基づき、合宿による地域滞在型での制作ワークショップにより、柔軟な発想により制作した作品と発表、そして厳しくも温かい講評者の貴重なコメントを合わせてお聴きください。古の教えに学びながら提案し、豊かな発想力のもと実現した小さな建築空間に存在する、新たな価値の発見に迫ります。



2010 奈良・平城宮跡



2011 滋賀・竹生島



2015 和歌山・高野山



2016 奈良・明日香村



2010 奈良・平城宮跡

2011 滋賀・竹生島

2015 和歌山・高野山

2016 奈良・明日香村



2017 滋賀・比叡山

2018 三重・伊勢

2019 島根・出雲

2020 奈良・東大寺

テーマ

“今、建築の、原初の、聖地から”

明治神宮

「はじめの百年。これからの千年。」 鎮座百年・重要文化財へ

2021年夏、現代に受け継がれてきた、わが国を代表する神社・明治神宮境内にて、小さな建築空間を実現する建築学生ワークショップを開催します。わが国の正月三が日の初詣では、300万人を超す第1位の参拝者数からも、世界を代表する聖地であるといえ、22万坪（約73ヘクタール）に及ぶ広大な神域と森に囲まれています。内苑と外苑に分かれたこの森は、太古の原生林と見まがう人工の森として存在し、東京で絶滅したはずの生物が数多く生息する場所でもあります。またこの造営には全国から延べ11万人もの青年が勤勞奉仕として参加し、鎮座祭は1920年（大正9年）11月1日に行われました。

「神聖な場所を受け継ぐワークショップ」として開催するこの取り組みは2001年から始まり、過去に山添村（奈良県）・天川村（奈良県）・丹後半島（京都府）・沖島（滋賀県）などの関西近郊の各地で行われ、それぞれの過疎化した地域を対象に関西の学生らが提案し、開催地の支援を得ながら、有意義な成果を残してきました。2010年からは、今までの取り組みの志向を変え、開催地の方たちと広く、一般社会にも投げかけてゆけるように、共同での開催となることを目指し、平城宮跡や竹生島、高野山金剛峰寺や明日香村キトラ古墳、比叡山延暦寺、伊勢神宮、出雲大社、そして昨年のもみぢ宮での開催など、日本の“聖地”とよばれる場所を開催地としています。公募により全国から集まった参加学生たちが、これらの特有な場所がもつ神秘的な力に対してどのようにリサーチし、真剣に考え向き合うのかを検討し、空間体験のできる規模（原寸大の建築）を制作し、建築のプロセス全体を体験する機会として開催していきます。

本開催は、公募した参加学生を5月14日に選出し、8つの班に分かれて、6月5日（土）に全国から東京に集まり、現地調査を開始します。明治神宮では、開催テーマとしての位置づけにもあるこの場所が持つ特有の力や意味を身体で感じ、その中から各々の班で発想の原点を見出していきます。さらに周辺地域の街歩きを繰り返し、いま現代に生き、東京で学んでいることへの意味をみずから問うていきます。

7月3日（土）の提案作品講評会では、国内外にて活躍をされる建築家・構造物の先生方を中心とした講評者の指導のもと、日本における貴重で特殊な環境における場所性に根づいた実作品をつくりあげる意味を問い直し、7月4日（日）の実施制作の打合せでは、地元の建築士や施工者、大工や技師、職人の方々に伝統的な工法を伝えていただく機会を得ながら、日本を代表する組織設計事務所の方々や多くのゼネコンに所属される技術者の皆様による実技指導をいただきます。

9月12日（日）、この参加学生たちが制作した小さな建築が8体、明治神宮境内に実現します。当日は、これらのプロセスを経て創出した建築空間を1日だけ、どなたでも体験していただけます。そして、建築・美術両分野を代表する評論家をはじめ、第一線で活躍をされている建築家や美術家の方々、世界の建築構造研究を担い教鞭を執られているストラクチャー・エンジニアによる講評者にお集まりいただき、公開プレゼンテーションを開催いたします。

開催には、都内をはじめとした東京都周辺の多くの方たちや、これまでの開催地の関係者の皆さま、そして全国から集まる建築に関わる関係者や一般参加者に向けた発表を行います。建築のプロセスに胸を躍らせる3ヶ月。参加学生たちがさまざまな歴史をもつ東京の伝統を学び、この文化に位置づけた解釈を生み、神宮に存在し続ける建築様式に連なり、訪れた人たちの心を落ち着かせ、祈りを捧げるような空間体験と提案の発表に、どうぞご期待ください。



本殿



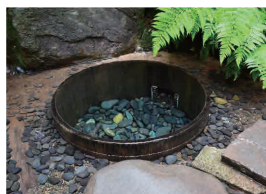
内拝殿



大鳥居



夫婦橋



清正井



明治神宮ミュージアム

建築学生ワークショップとは？



平城宮跡

建築ワークショップとは、建築や環境デザイン等の分野を専攻する学生がキャンパスを離れ、国内外にて活躍中の建築家を中心とした講師陣の指導のもと、その場所における場所性に根づいた実作品をつくりあげていくことを目的としてきました。2001年度から始まったこのワークショップは過去に山添村(奈良県)・天川村(奈良県)・丹後半島(京都府)・沖島(滋賀県)などの関西近郊の各地で行われ、それぞれの過疎化した地域を対象に提案し、市や街、村の支援を得ながら、有意義な成果を残してきました。



竹生島

第10回目の開催となった2010年度より、新たに今までの取り組み方の志向を変え、一般社会にも投げかけてゆけるような地元の方たちと共同開催での参加型の取り組みとなっていくことを目指し、「平城遷都1300年祭」の事業として、世界文化遺産(考古遺跡としては日本初)にも指定されている奈良・平城宮跡で開催しました。続く2011年度は滋賀・琵琶湖に浮かぶ「神の棲む島」竹生島(名勝史跡)にて、宝蔵寺と都久夫須麻神社と共に開催。無人島とされている聖地に、地元周辺の方たちと汽船で通う取り組みを行いました。



高野山

2015年は、開創法会1200年となる100年に1度の年に、高野山・金剛峯寺(世界文化遺産)との取り組みから、境内をはじめ周辺地区での開催をし、2016年には、昭和58年11月7日に聖地・キトラ古墳で、ファイバースコープによって北壁の玄武図が発見されてから30年を経て、公開される直前のキトラ古墳と国営飛鳥歴史公園の開演イベントとして、キトラ古墳の麓に小さな建築を8体実現。2017年には、国宝根本中堂「平成の大改修」始まりの年に、「古都京都の文化財」の一環としてユネスコの世界遺産に登録された、京都市と大津市にまたがる天台宗総本山・比叡山延暦寺にて開催。2018年は、天皇陛下生前退位をされる前年、満了する平成最後の夏に、伊勢にて開催。2019年は、「平成の大遷宮」完遂の年に、出雲大社にて開催。2020年は国内初のプリツカー賞授賞式の聖地に於いて、東大寺にて開催いたしました。



明日香村

このような日本における貴重でかけがえのない聖地における環境において、地元の建築士や施工者、大工や技師、職人の方々に古典的な工法を伝えていただきながら、日本を代表する建築エンジニアリング企業・日本を代表する組織設計事務所の方々や多くの施工会社の皆様、そして建築エンジニアリング企業の方たちによる技術者合宿指導により実制作を行い、地元・地域の多くの方たちによる協力のもと、原寸の空間体験ができる小さな建築物の実現と、一般者を招いた公開プレゼンテーションを行う等、これまでにない新たな試みを実施する『全国の大学生を中心とした合宿による地域滞在型の建築ワークショップ』です。



比叡山



伊勢神宮



出雲大社



東大寺

開催目的



公開プレゼンテーションの様子



作業の様子



提案作品講評会の様子



実施制作打合せの様子



各班エスキースの様子



現地説明会・調査の様子

1. 学生のための発表の場をつくる

学内での研究活動が主体となっている学生にとって、一般市民に開かれた公開プレゼンテーションを行うこと自体が非常に貴重な体験となります。また、現在建築界で活躍する建築家を多数ゲスト講師に迎えることで、質の高い講評を参加者は受けることができます。また、ワークショップ終了後の会場での展示や、会期報告としてホームページや冊子の作成を行い、ワークショップの効果がさらに継続されるような仕組みをつくりま

2. 教育・研究活動の新たなモデルケースをつくる

海外での教育経験のある講師を招聘する等、国際的な観点から建築や環境に対する教育活動を行うワークショップとして、国内では他に類を見ない貴重な教育の場を設けます。また、行政や教育機関の連携事業として開催することで、国内外から注目される教育・研究活動として、質の高いワークショップをつくることを目指します。

3. 地球環境に対する若い世代の意識を育む

現在、近畿の各地方には、世界に誇る貴重な文化遺産を有する京都や奈良、琵琶湖や紀伊半島の雄大な自然など、豊かな環境が数多く残っています。しかしながら、近年の社会経済活動は環境への負荷を増大させ、歴史的に価値の高い環境をも脅かすまでに至っています。このワークショップでは一人一人がこうした地域環境の特殊性、有限性を深く認識し、今後の建築活動において環境への配慮を高めていくと同時に、地球環境の保全に貢献する人材を育てていくことをねらいとしています。次世代を担う学生たちが、具体的な経験を通して環境に対する意識を育むことは、環境と建築が共存できる未来へと、着実につながるものと考えます。

4. 地域との継続的な交流をはかる

歴史、文化、自然が一体となって残る地域の特色を生かしたプログラムを主軸に、特殊な地域環境や、住民との交流によって生み出される制作体験を目的としています。各地域にはそれぞれの土地で積み重ねてきた独自の歴史や文化、風土があり、自然素材を上手く活用してきた歴史があります。短期間のイベントであればそれらを深く知ることはできませんが、数ヶ月にわたる継続的な活動を前提として取り組むことで、より具体的な提案や制作によって、地域に還元していくことができると考えています。



集合写真



大仏殿参拝

開催概要

開催テーマ “今、建築の、原初の、聖地から”
開催希望場所 明治神宮境内（東京都）

予定スケジュール 2021 年度（令和 3 年）

2020 年 02 月 20 日（木）事業計画（草案）決定と座談会の開催
11 月 07 日（土）募集パンフレット全国配布
11 月 08 日（日）参加者募集開始（web 公開）
2021 年 01 月 08 日（金）プレスリリース配信（雑誌各社への広報）
05 月 06 日（木）参加説明会開催（東京大学）五十嵐太郎
05 月 12 日（水）参加説明会開催（京都大学）倉方俊輔
05 月 14 日（金）23:59 必着 参加者募集締切（参加者決定）
06 月 05 日（土）現地説明会・調査
06 月 19 日（土）午後予定 各班エスキース（東京会場）（大阪会場）於
07 月 03 日（土）～04 日（日）提案作品講評会と実施制作打合せ（1泊2日）
07 月 03 日（土）提案作品講評会
07 月 04 日（日）実施制作打合せ
07 月 20 日（月）～08 月 24 日（月）各グループ課題の制作
09 月 07 日（火）～09 月 13 日（月）合宿にて原寸制作ファイナル（6泊7日）
09 月 07 日（火）現地集合・資材搬入・制作段取り（1日間）
09 月 08 日（水）～09 月 11 日（土）原寸模型制作（4日間）
09 月 12 日（日）公開プレゼンテーション（1日間）
09 月 13 日（月）清掃・解散（1日間）

制作内容 “唯一無二の環境を守るために、あなたの提案を実現化してください”
フォーリーの原寸模型を地域産材（自然素材 / 木材、和紙、土、石など）の材料で制作

Architectural Workshop MEIJIJINGU 2021

予定表

写真は2019年度開催の様子

- 2019年 9月16日(月)
明治神宮開催決定
- 2020年 2月20日(木)
座談会
- 2021年 5月6日(木)
参加説明会開催(東京大学)
- 5月12日(水)
参加説明会開催(京都大学)
- 6月5日(土)
現地説明会・調査
- 7月4日(土) 午後
各班エスキース(東京会場・大阪会場)
- 7月3日(土)
提案作品講評会
- 7月4日(日)
実施制作打合せ
- 9月7日(火)~13日(日)
現地集合・資材搬入・制作段取り
合宿にて原寸制作(6泊7日)
- 9月12日(日)
公開プレゼンテーション
- 9月13日(月)
撤去・清掃・解散



Architectural Workshop MEIJIJINGU 2021

参加対象者 建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生
 参加人数 60人(大学院生1人+参加学生4~6人)×8班 計50名(上限)+運営サポーター10名(上限)
 学生参加費用 実費(宿泊費、保険代、資料代等約¥35,000事前徴収制)

※現地までの交通費は各自別途負担となります。

※このワークショップは、ご賛同をいただいている企業・財団、ならびに開催地の有志の方々のご協力と、学生の参加費により運営をしています。

参加講師(予定) ※日本を代表する講評者・総勢24名による講評

日本の文化を世界へ率いる方々や、建築・美術両分野を代表する評論家をはじめ、第一線で活躍をされている建築家や都市計画家、アートディレクターや、構造研究を担い教鞭を執られているストラクチャー・エンジニアによる講評。また大学で教鞭を執られ、日本を代表されるプロフェッサー・アーキテクト、コミュニティデザイナー等にご講評いただきます。

伊東 豊雄 (建築家 伊東豊雄建築設計事務所 主宰)	佐藤 淳 (構造家 東京大学 准教授)
太田 伸之 (実業家 クールジャパン機構 前社長)	芦澤 竜一 (建築家 滋賀県立大学 教授)
建畠 哲 (美術評論家 多摩美術大学 学長)	遠藤 秀平 (建築家 神戸大学 教授)
ナガオカケンメイ (デザイン活動家 D&DEPARTMENT ディレクター)	竹原 義二 (建築家 神戸芸術工科大学 客員教授)
南條 史生 (美術評論家 森美術館 前館長)	長田 直之 (建築家 奈良女子大学 准教授)
前田 浩智 (ジャーナリスト 毎日新聞社 主筆)	平田 晃久 (建築家 京都大学 教授)
五十嵐太郎 (建築史・建築批評家 東北大学 教授)	平沼 孝啓 (建築家 平沼孝啓建築研究所 主宰)
稲山 正弘 (構造家 東京大学 教授)	藤本 壮介 (建築家 藤本壮介建築設計事務所 主宰)
江村 哲哉 (構造家 アラップ構造エンジニア)	安井 昇 (建築家 桜設計集団 代表)
倉方 俊輔 (建築史家 大阪市立大学 准教授)	安原 幹 (建築家 東京大学 准教授)
腰原 幹雄 (構造家 東京大学 教授)	横山 俊祐 (建築家 大阪市立大学 客員教授)
櫻井 正幸 (旭ビルウォール 代表取締役社長)	吉村 靖孝 (建築家 早稲田大学 教授)

主 催	特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ
特 別	明治神宮
特別協賛	旭ビルウォール
地域協賛	サンユー建設 住友林業 他
連携協賛	連携組織設計事務所 12社 連携施工会社 10社
連携協力	東京大学 京都大学
後 援	観光庁 毎日新聞社 日本建築学会 日本建築士会連合会 日本建築士事務所協会 日本建築家協会 日本建築協会 日本建築材料協会 東京建設業協会 東京建築士会 東京都建築士会事務所協会 日本建築家協会関東甲信越支部
助 成	ユニオン造形文化財団

※全て予定